

# 小 児 科

## 後期研修プログラム

### 1. 研修概要

旭川医科大学小児科学教室では、経験豊かな指導医と豊富な症例により、初期研修終了後3年間で小児科専門医を取得できるように研修制度を充実させています。旭川医科大学病院では6つの専門診療グループに分かれ、高度先端医療、極めてまれな疾患、最先端の研究に触れることが可能です。一方で道北道東圏のほとんどの市中病院を関連病院として有し、ここでは日常診療で見られる数多くの疾患を経験することができます。また希望により、大学院医学研究科専攻の選択が可能です。大学院は国際競争力のある研究者を育成するコースであり、旭川より優秀な研究報告が世界に発信できるような若き人材の育成に力を入れています。具体的な研修概要は以下の通りです。

3・4・5年目：旭川医科大学病院小児科または関連病院

(小児科一般研修、希望により旭川医科大学大学院医学研究科専攻選択可能)

6年目：旭川医科大学病院小児科

(小児科中期専門分野ローテーション研修、小児科専門医取得)

---

### 小児科専門医の取得条件

以下に該当する医師であって、筆記試験、症例要約評価、面接試験および審査に合格した者が専門医として認定される。

- 1) 試験当日に学会会員であり、学会会員歴が引続き3年以上、もしくは通算して5年以上であるもの。
- 2) 2年間の卒後臨床研修を受け、その後さらに小児科専門医制度規則第15条に規定する小児科臨床研修を3年以上受けたもの。もしくは小児科臨床研修を5年以上受けたもの。

---

7年目以降：小児科専門分野選択研修

なお、研修場所、ポスト、給与等具体的な条件については直接御相談に応じます。

連絡先／担当者 高 橋 悟

電 話 0166-68-2481 Fax 0166-68-2489

メールアドレス [pediatrics@asahikawa-med.ac.jp](mailto:pediatrics@asahikawa-med.ac.jp)

小児科ホームページアドレス

<http://www.pediatric-world.com/asahikawa/>

## 2. 研修目標

以下に共通目標、ならびに各診療グループが掲げる研修医の到達目標を示します。詳細は小児科ホームページ (<http://www.pediatric-world.com/asahikawa/>) を参照して下さい。

### 共通目標

成長と発達という小児の特性を十分に考慮して病歴を聴取し、鑑別診断を行い、治療計画を立てることができる。本人および家族に対し、適切な時期に必要な説明をすることができる。紹介元に必要に応じて連絡をすることができる。

研修期間中に全てを修得することは難しい。習得できなかった技術や経験できなかった疾患があれば、その他の研修期間に充当するように鋭意努力する。

### 内分泌・糖尿病・腎臓

#### 1. 一般目標

- (1) 成長過程において内分泌機構が果たす役割を理解する。
- (2) 内分泌疾患は、非特異的な病像を呈することが多いことを理解する。すなわち、全身に広がる非特異的の症状（やせ、肥満、身長が伸びない、微熱、頻脈、疲れやすい、活気がないなど）を総合的に解釈する態度を養う。
- (3) 生活習慣が身体機能に及ぼす作用について理解する。
- (4) 新生児マススクリーニングで行われる疾患群の病態と初期治療を理解する。
- (5) 腎・尿路系に疾患を持つ小児患者の病態生理を理解し、それに対する検査計画、治療方針を立て、患者およびその家族と協力して医療を行う。

#### 2. 行動目標

- (1) 内分泌疾患を疑う臨床症状に対して、適切な検査を計画できる。
- (2) 成長および二次性徴の発達を正確に評価することができる。
- (3) 内分泌的救急疾患への対応方法を習得する。
- (4) 小児腎・尿路系疾患の診断、治療を適切に行うことができる。

## 神 経

#### 1. 一般目標

- (1) 小児の経年的な運動・精神発達を理解し、その評価を適切に行い、異常を指摘できる。
- (2) 多岐に渡る小児神経疾患に対する理解を深め、検査・治療方針をたてることができる。

#### 2. 行動目標

- (1) 運動発達や精神発達の把握に有用な病歴聴取、身体診察、発達検査を行うことができる。
- (2) 神経症状の病態把握に有用な病歴聴取と身体診察を行うことができる。
- (3) 意識レベルの評価ができる。
- (4) 神経画像の読影、脳波の判読ができる。
- (5) 脳波、誘発電位などの生理学的検査を行うことができる。

## 感染・免疫

### 1. 一般目標

- (1) 小児感染症、アレルギー疾患、自己免疫疾患の医療を適切に行うために必要な基礎知識・技能・態度を修得する。

### 2. 行動目標

- (1) 感染症、アレルギー疾患、自己免疫疾患の診断、治療を適切に行うことができる。
- (2) 予防接種を適切に行うことができる。
- (3) 院内感染予防を適切に行うことができる。

## 循環器

### 1. 一般目標

- (1) 循環器疾患をもつ小児患者の病態生理を理解し、それに対する治療方針を立て、患者およびその家族と協力して医療を行うこと。

### 2. 行動目標

- (1) 小児循環器疾患の診察に有用な病歴を聴取できる。
- (2) 循環動態を把握するための身体所見を得ることができる。
- (3) 循環動態を把握するための生理学的検査を行い、その所見を判定できる。
- (4) 病態生理に対応した薬物治療、カテーテル治療、または外科治療の方針を立て、患者および家族にそれを説明できる。
- (5) 侵襲的な診断・治療手技を習得する。

## 新生児

### 1. 一般目標

- (1) 新生児の胎内環境から胎外環境への生理的適応を理解する（新生児疾患は、胎環境への適応障害と考えることができる）。また、新生児養護の原則である、栄養、保温、感染予防、母子関係の確立し必要な技術と態度を身につける。
- (2) NICUは、新生児の全身管理を行う。したがって、新生児の生理と疾患について十分な知識をもつことが要求される。また、NICUでは、チーム医療を行なう。新生児医療は、多くの職種から成り立っていることを理解する。医師は、コーディネーターであり、スタッフの意見を尊重して診療に当たる。
- (3) 新生児医療は、新生児を取り巻く家族を含めた医療を行うことを理解する。

### 2. 行動目標

- (1) 分娩に立会い、蘇生ができる。
- (2) 新生児を診察し、異常の有無を判断できる。
- (3) 新生児疾患を理解し、診断・処置を行うことができる。また、適切な時期に、NICUに搬送することができる。

## 血液・腫瘍

### 1. 一般目標

- (1) 悪性疾患に対する治療においてはリスク等により患者の層別化がなされ、各群に最適な治療が用意される。よって初発時の正確な診断能力を身につけたい。
- (2) 悪性疾患の治療は合併症が必発であり、その対策が治療の成否を左右する。よって様々な治療によって起こってくる合併症に対するセンスを身につけたい。
- (3) 患児とその家族の精神的、経済的負担は医療者側の予想をはるかに超える。あたたかいハートを身につけたい。

### 2. 行動目標

- (1) 小児血液疾患・悪性腫瘍疾患の診療に有用な病歴を聴取できる。
- (2) 血液疾患・悪性腫瘍疾患を把握するための身体所見を得ることができる。
- (3) 血液疾患・悪性腫瘍疾患を把握するための検査を行い、その所見を判断できる。
- (4) 血液疾患・悪性腫瘍疾患の正確な診断ができ、治療計画を立てることができる。診断と起こりうる合併症に対する対策を説明することができる。
- (5) 造血幹細胞移植への理解を深める。